

平成29年度 第1回黒松内町総合教育会議事録

1. 期 日 平成29年7月27日(木)
午後1時30分から午後3時20分
2. 場 所 コミュニティ防災センター 町民活動室1
3. 出席者 (構成員)
- | | |
|---------|---------|
| 町 長 | 鎌 田 満 |
| 教 育 長 | 内 山 哲 男 |
| 教 育 委 員 | 池 田 重 人 |
| 教 育 委 員 | 岡 久 孝 雄 |
| 教 育 委 員 | 金 石 澄 子 |
- (事務局)
- | | |
|----------------|---------|
| 教育委員会教育次長 | 鈴 木 浩 勝 |
| 総務・生涯学習グループ 主任 | 工 藤 英 生 |

本日の会議に付した事件

- (1) 学校運営協議会について(地域に開かれた学校運営と地域との関わり)
- (2) 当面する黒松内町教育課題(協議)について

会 議 の 顛 末

- 事務局 平成29年度第1回黒松内町総合教育会議を始めさせていただきます。
本日は、教育委員1名が欠席いたしますので、5名の皆さんでとり進めます。
それでは、次第に基づき進めます。1番挨拶、鎌田町長よりお願いします。
- 町 長 今日、お忙しい中、出席をいただき本当にありがとうございます。
皆様には、日頃から本町の教育の推進に大変なご理解ご協力をいただいております
ことに対し、厚く感謝を申し上げる次第でございます。
早いもので7月に入りました。子供たちの頑張りもあり、スポーツでは全道大会に出
場するなど嬉しい話題になっています。
今週末はビーフ天国が開催され、天候は大丈夫のようです。西予市長を始め議長、
議員、そして交流市民の方など総勢20名が来町します。
新幹線延伸に向けて観光面の強化のため、長万部町や豊浦町などの近隣町村との交
流を深める取組を始めました。隣町でも振興局が異なると意外に交流がないですね。
まずは、イベントに参加することから始めており、ビーフ天国に近隣町長が来られま
す。
それでは議題に入ります。
教育委員の皆さんもお考えになられている学校運営協議会についてを、その後に、
当面する黒松内町教育課題をテーマにし、また、皆さんとせっかくの機会であります
から、これ以外の町の施策も含め、色々な情報交換、ご意見をいただければと思っ
ておりますので、よろしく願いを申し上げ、簡単ではありますが開会の挨拶とさせてい
ただきます。本日はありがとうございます。
- 事務局 それでは、2番議題に移らせていただきます。(1)、(2)の議題がございますの
で、町長に進行をお願いします。
- 町 長 1番目の議題は、学校運営協議会についてです。視察もされていると聞いておりま
す。まず、事務局から説明ください。
- 事務局 3点の配付資料を基に、視察内容も含め説明いたします。
1つ目は、平成28年11月に教育委員会の視察として訪問しました胆振管内にあ
る町の取組です。平成25年7月から開始し、3年間かけ町内全部の6つの小中学校
で取組しており、平成28年度からは認定こども園でも開始されました。資料1ペー
ジでは目的を示しており、「学校運営協議会は、家庭・地域が学校の応援団として学
校づくりに貢献し、まちづくりの担い手を育成する」とし、期待するものとして4点
を掲げています。各協議会は10名以内の委員で構成し、委員構成の特色として地域
の方々とともに、教育次長が委員として全ての協議会に参加しています。当該学校の

教頭及び教諭、教育委員会職員がオブザーバーとして随時、参加して円滑な運営のサポートをしています。6校では、会議は年4回から5回開催し、資料5ページ以降にありますとおり、応援団・朝活・環境整備・通学路の安全対策、防災教育等を、また、学校施設の環境整備を教育委員会と学校だけではなく協議会でも検討しております。

2つ目は、今月に教育委員会職員と来年度から取組を予定している黒松内中学校長で視察した十勝管内にある町の取組を紹介します。平成27年度からは町内全4校が同時にスタートしています。委員構成は、教育委員会職員が極力、会議の場面に入らない方が、より活発な議論・活動になるだろうとのことで、委員にもならず会議にも出席はせず、報告書の提出を受けています。推進の基本は、資料裏面のとおり、1教育長や校長のリーダーシップの発揮、そして、文章にはありませんが町長も取組の推進を理解して進めていることを、先生や保護者にも示すことが重要であるとの説明を受けました。2一体的に推進する運営体制の確立、3当事者意識の高揚であり、特に、先生の関わりを深めることが大切であるとのことです。進めるにあたり、「まちづくり」も議論に出ることがありますが、この町では、まちづくりを取り組むべき項目に含めなくともよいと事前に定めており、対象が広がることへの先生らの不安感を和らげています。初年度に、熟議の上アクションプランを作成しました。このプランで、学校・家庭・地域・子供がそれぞれの取り組むべきことを定め、見える化しており、当事者意識の高揚につなげています。

3つ目は、本年4月現在の北海道における学校運営協議会の導入校の状況です。札幌市を除いておりますが、35市町村・164校で導入率は12パーセントです。後志管内では、平成26年には3校が、今年からは小中学校と幼稚園と高校の4校1施設で開始される町があります。また、平成30年度開始予定の町があると聞いております。

以上で資料3点の説明といたします。

また、本町では平成30年度に黒松内中学校、平成32年度に残りの3校の取組開始を予定しています。

町長 事務局からの資料説明について、質問がありますでしょうか。

両町ともしっかりとしたビジョンを持っていること、そして、違いは教育委員会の関わり方でしょうか。どちらの手法が、本町に合っているかをしっかり検討していただきたいと思っています。

町長としてのビジョンをお話させていただきます。

地域や行政が学校をサポートして、ふるさとを愛し、大切にすることが育ってほしいと思います。高校や大学に進学のため、一度、町を離れた子供が町にどんどん戻ってくることは、町にとっても良いことだと思います。人材としても、育っていることになります。

今回は、学校運営協議会の内容をまとめるということではなく、教育委員が感じていることをお話してください。

委員① 十勝管内の事例では2地区に分かれています、児童生徒数も異なると思いますが、取組の違いはありますか。

事務局 両地区とも小学校と中学校が各1校で町内では4校となり、30km離れていることもあり、住民性が異なっているとのこと。正式な義務教育学校ではありませんが、教育課程を共有化するなど准義務学校といえる学校運営をしています。このため、各地区では小学校と中学校で合同の学校運営協議会を運営しています。

委員① 地域性に合わせて学校運営協議会を運営しているのですね。

事務局 そうです。実質2つの学校運営協議会ですので、町全体の取組を知るため、年3回合同会議の小中一環CS委員会を開催しています。距離は違いますが、黒松内地区と白井川地区のようでしょうか。

委員① 学校運営協議会の開催回数は何回ですか。

事務局 現在は、年8回です。当初は無理をしないよう4回でしたが、様々な議論が出て、委員の中から自然に会議が必要ではとの声があがり、増えていったそうです。会議はダラダラではなく、1時間30分から2時間と集中して行われています。

学校評価委員も兼ねており、大きな評価課題が出たらその解決・改善も検討しています。

町長 事務局はどこがしていますか。

事務局 両町とも事務局は学校が行っています。

十勝管内の事例では、取組が学校にもメリットがあることをしよう、もし、なければ学校での事務は増えていますので、多忙感だけになってしまいます。意識的に先生に何をするかを考えていただきますし、出た意見はできる限り取組をしようという姿勢です。学校運営協議会業務は、教頭とコミュニティ・スクール担当を教員の一人を校務分掌に定めています。地域理解を高めるため、コミュニティ・スクール便りを担当教員が作成して、地域に配付しています。

教育長 2つの事例や研修会から、学校・保護者・地域も若しくは子供が「なぜ、コミュニティ・スクールが必要なのか」の熟議が大事であり、その取組により良くなることの理解の共有が欠かせません。十勝管内の事例は、文部科学省のモデル例になっています。

コミュニティ・スクールは、学校の課題として例えば学校が荒れているとか、学力の向上をするとかがあれば、地域の課題として一緒に解決していくことになります。もう一つは課題がない場合には、次世代の教育に向けた取組をするといった秋田県や

道内での中間層であったり、本町も当てはまるのかもしれませんが。今は、課題はなく、地域とともに取組はできている場合でも人口減や携わっている方々が高齢化し、10年後にはどうなっているのか、持続的可能な体制であるのかを考えると、本町においてもとても大変な時期になっていると思います。

見える課題ではなく、見えない課題に教育活動ができていないか掘り下げる場であったり、学校内でのトップダウンや個性的な先生が取組がされても先生が異動するとできなくなる場合など、知徳体から大きく外れることはなくとも変わることありますので、学校運営協議会が調整役としての位置付けになると思います。町長が言われたふるさとを愛する子どもをつくるためのビジョンを作る人、取り組む人の意識が共有することができるアクションプランがこれに当たると思いますし、黒松内型プランを作りたい。

また、子供たちにも加わってもらうことで、当事者意識が芽生えます。総合教育会議で教育大綱を示していますが、学校運営協議会で学校や地域でも黒松内型プランを考えてほしい。本町の現状は、どんな子供を学校や地域も含めて作っていくということが明確ではないと感じています。

町民の皆さんにも、キーワードをつくり簡単に紹介していきたい。

学校運営協議会の取組開始に当たり、無理なく進めるためには先進校からというのが望ましいと考えています。先進校となる黒松内中学校では、新しいものをするのではなく、まず、現在の取組を整理することから始め、取組の初年度では共有するビジョンづくりが必要で、時間が掛かる。使えるシステムとするためには、町民にもこの取組や制度をお伝えしていきます。

町長 教育委員の皆さんの理解をいただき、時間を掛けて進めてほしい。

教育長 町長が、この取組を進めることを総合教育会議で発言いただいていることは、教育委員会だけではなく町の方針ともいえますので、教育委員会でもしっかりと、丁寧に時間を掛け、理解いただける場を設けるなど進めて行きます。

町長 まだ具体的な内容が定まってはいない段階ですが、教育委員の皆さんからのご意見はありますか。

委員② 十勝管内の事例を、初めて紹介いただきましたが、それぞれの方が何をするのがアクションプランで示されていて、行政の部分は書かれていないが、分かりやすいと感じました。特に、子供たちが何を取り組むかが、見える化されています。

教育長 十勝管内の事例は、東京都三鷹市を参考に進めています。この見える化もその一つです。

本町でも、アクションプランを作れたらいいと思いますし、作る課程では行政からのトップダウンではなく、学校運営協議会として皆さんで作ってほしい。教育の原点

は家庭であり、それを支援していきたい。

町長 色々な関係者の理解や説得するためにも黒松内型アクションプランは必要ではないでしょうか。説明会にも、アクションプランを示すことで学校運営協議会の必要性を知っていただけたらと思います。

後志管内の事例はどんな現状であり、どんな評価がされているのですか。

教育長 教育委員会で、視察をしてきました。地域の方々が授業に参加し、ふるさと学習を進めています。小中高の連携を進めていく一つとしても位置付けられています。ただ、コミュニティ・スクールは全道ではまだ一部の学校だけの取組ですので、先生の異動があると一から説明をしなくてはいけないのが現状です。取組当初は、加配により先生の負担にならないように配慮していました。

結果は、何をやったかではなく、子供たちに具体的に何かの力が付いたことを実感できる制度にしなくては意味がない。以前聞いた講演では、「学校運営協議会は高校にこそ必要である」と話されていて、高校生が卒業した後に地域に対して活性化するためには自分が何ができるかという意識を芽生えさせることが重要です。十勝管内の事例では地元には高校はありませんが、他町に通学している地元高校生が町内にサークルを作って、東京で町のピーアールするなどの活動をしています。今後、例えば札幌市で特産物販売をするときに、市内にいる本町出身の高校生や大学生がボランティアでお手伝いをしている姿があると、ふるさとを愛しているといえるのではないのでしょうか。

黒松内をふるさととして感じられる心や、この心を持って生活していく子供を育てていきたい。環境や福祉などの優れたものを体系的に学び、力にしていくようにして、人間の土台にして育んでほしい。

ふるさと学習は、本年度からの町営塾でも検討しています。保護者の理解を得やすいのは、学力の向上であり、高校等への進学において選択肢が増えるようにしたいと考えています。

委員③ ふるさと教育が中心になるとの話が出て、気持ちとしては分かりますが、ふるさと教育はするものではなく、生まれて自然に思う所がふるさとではないのでしょうか。あまり、ふるさとを言葉にするのではなく、普段、あいさつをするなどの基本的なことができ、この町がいいと自然に感じられる所が本当にふるさとだと思います。町外に出たいと思う子供がいたら、それを送り出すのもふるさとの役割です。

ふるさと教育という言葉に抵抗が少しあります。押しつけるのではなく、自然とふるさとの意識が感じられるようなまちづくりが大事であると思います。私もこの町出身ではありませんが、本町出身以外の方が住まわれて出ていかれた時に、黒松内はこんな町だったとふるさと感を持つようなまちづくりや学校づくりであってほしい。本町生まれでなければ、ふるさととってはいけないような感覚にもなりますので、ふるさと学習の言葉を前面に出し過ぎると、気持ちが少し引いてしまいます。

教育長 教員でしたので、町を離れたことがあります。この町では、家を建てて半人前、墓を建てて一人前と聞いたことがあります。その時は、出身者でなければいけないのかとも感じましたが、黒松内はそれほど閉鎖的ではないと思います。多分、住んでいる町の誇りという精神的なものや、仲間づくり、福祉施設が長い時間をかけて取り組まれていることなど、町の歴史を学んでいくことが大切であり、教え込むことではないと思います。小学校から体験すること、また、町外と対比することでふるさとを感じるようになる。他町の例では、修学旅行で大きな市の水道水を飲むとすぐに美味しくないと感じる。このことで、自分の町の水がおいしいことを実感しています。

委員③ そのようなことは、子供たちは感じられると思いますし、感じていると思います。

教育長 教育的には、感じた気持ちを守り続けて、次の世代にも渡さなくてはいけないし、期待感を持っています。

委員③ 町外から来られた方でも、本町でまちづくりなどをされているので、生まれた町がどこかということではなく、誰もが本町の自然や歴史の良さを感じていただけること、体験する機会があることはいいことだと思います。

町長 これから計画内などの言葉や表現では、短い単語を使いますが、このような思いがあることを考慮し、皆さんに伝わるどんな言葉があるかを考えていかななくてはけません。

一つ目の議題は、ここで終えたいと思います。これからは、ただき台を示して、総合教育会議や教育委員会として協議したいと思います。

次に、当面する黒松内町教育課題について、委員の皆さんからありましたら、お話しください。

委員③ 町長にお聞きします。白井川地区の小学校と中学校の今後のビジョンはどのように考えていますか。教育委員になる前に聞いた話では、白井川地区の学校統合が話題となったが、地域の方の希望等から存続することとした。しかし、近年では児童生徒数が減少する中でも、声が聞こえてこない。

町長 教育委員会で充分話をさせていただくことでもあります。基本的には学校の存続を考えており、児童生徒数の増加が必要です。そのために、白井川地区に複合施設整備や福祉施設の移設誘致に取り組み、住民の増加を目指しましたが、うまくいかない現状であり、決断をしなくてはいけないと考えています。

白井川地区は、地域のまとまりが強い所であり、これは学校が中心になっていることでもあり、過激なことはできません。少人数で学校運営として良いのかとの思いがありますが、地域や保護者の思いもあり、難しい判断になります。しばらくの間は、小学校は児童数の推移があるので存続していきたいと考えています。決断の時期が迫

っており、教育委員会とも相談をしないといけない。

委員③ 私は、地域の方の意見を聞いたことがなく、本当はどのように思っているのか地域の声を聞いてほしい。推測だけで、話を進めてはいけないと思います。

教育委員会内でもお話をした後の学校訪問で、両校を見てコミュニティが少なく、社会性が育つのか不安があります。コミュニティ・スクールも含めて、地域の中で子供を育てるといわれていますが、学校の現状をみるとこれではないのではと考えます。運動会などの行事は合同で行っていますので、小中一貫校としてもよいし、児童生徒数を増やすためには山村留学にもっと力を入れ、寮を建設して全国から募集してもよいと思います。

町長 私も重々理解しています。山村留学は、今年は1人いますが、やり方にもよりますが、集まる環境なのでしょうか。

委員③ 小規模校というのであれば、黒松内小学校も一緒ですので、山村留学としては丁度良い人数ではないでしょうか。

町長 保護者の思いとしては自分の子供がいる間は存続してほしいのかもしれませんが、しかし、子供からの目線で考えることも大切です。

委員③ 学校のあり方は、保護者の都合ではなく、子供を中心に考えてほしい。

町長 教育委員会に、学校適正配置計画はありましたか。

教育長 平成8年に作成しており、現在の計画は18年4月に一部改正したものです。学校再編成要綱では、小学校は児童10人以下、中学校は生徒6人以下の場合を再編基準としていますが、白井川地区の両校は21年4月から特認校として指定しており、実質再編基準以下ですが、凍結している状況です。

委員② 活発に取り組んでいた時期がありました。

教育長 中ノ川小学校の統廃合は、平成18年度に行いました。

白井川地区においては、平成26年度に学校と保護者に説明会をし、学校統廃合は地域や保護者が決めるのではなく、教育委員会が決めると説明しています。もちろん、町長や議会との理解をいただき、決定します。何年か分からないが、統合はすると話をしています。まちづくり座談会にも同様な質問があり、回答しています。

また、地方創生分野では、小さな学校を存続させて、特色ある学校づくりをすることもありました。少人数になっても、廃校するのではなく休校にしておく、それは、地域おける学校の力を認めているからです。

人口減の社会の中で、学校があることで地域がある程度のまとまりが保てている、白井川地区もまさしくその通りだと思います。都市部の大規模な学校では、その児童生徒のニーズに応えることができないことがあり、数人ですがの小規模校に対するニーズがあることは私も把握しています。保護者は、住む場所や働き先を選択しています。これらのことから、今は山村留学や通学支援を行い、学校を続けている状況です。

町長 来年ではありませんが、将来のことを考え、判断する時期がきていると正直考えています。教育委員会は、地域の方々の意見を聞く場を設けていただき、しっかり協議していきたい。町長だけの意見では決められませんので、教育委員の意見もお聞きし、一定の方針を出していきたい。

教育長 これだけはお話したいです。白井川地区の両校では、各先生は小規模校を克服する授業・学校づくりをしっかりとやっています。個々にあった指導をしています。

委員① J Rの減便を受け高校生の通学が大変になっていますが、どのような現状ですか。

町長 本町独自の取組はできていなく、高校がある町のスクールバスを本町まで延長している状況です。

J Rだけではなく、路線バスの課題も聞いています。インバウンドによる観光バスの増便で、路線バスの運転手が不足しており、人材確保が急務であるとの説明がありました。土・日のバスを運休にする検討をしなければいけないほど、大きな課題になっています。近隣の町村との福祉バスの連携・乗り入れなど、解決すべき内容はありますが、検討しています。もう自分たち町村で解決しなくてはいけないと思っています。高校生だけではなく、住民全体のことでもありますし、大きなスケールを持ち、検討をスピードアップしていきたい。

13年後の新幹線運行後は、本町を含む周辺区間はJ Rからの経営分離が決定しています。一番良いのは沿線自治体が鉄道を引き継ぐことですが、道南のいさりび鉄道では旅客運賃よりも貨物列車の鉄道使用料が収入を占めています。本町の区間では線路が傷んでおり、貨物列車は走れず鉄道使用料が見込めないことから旅客運賃だけになるため、経営面では大丈夫なのかと不安です。北海道が在来線移行の事務局であり、新幹線運行の5年前までに決定すればいいとの思いですが、地域としてはもっとスピードアップして対応を決定したい。有珠山の噴火を考えると、J Rとしても室蘭線だけではなく、函館線の存続が望ましいのではと思っています。沿線自治体でも利用者の多い自治体とは、危機感に対する温度差は異なっています。

来春には、町職員として防災専任者の採用を、自衛隊OBの方で予定しています。自衛隊とも相談し、個人の特定はできています。本町では、公共施設の耐震化や備蓄品は年次計画により整備されつつありますが、実際に職員等が避難所の開設や運営がスムーズ対応できるのか、その体制づくりが遅れています。準備、計画づくり、訓練

や避難所運営準備などに取り組みます。学校は避難所になっていますので、関係する取組も進めていきます。

教育長 10区ではしりべし学園分校と合同の避難訓練を計画していると聞きましたが、進んでいますか。

委員① 10区で防災担当をしています。分校では地域と連携した避難訓練を希望されましたので、文書を作成し提出しました。子供の参加が少ないので、子供会と連携し、各世代が参加する訓練にしたいと考えています。

教育長 黒松内地区では、総合体育館がメインの避難所になります。宿泊することもありますので、実験的に一度訓練することで、必要な物や対応が把握できると思います。

委員① 10区では各福祉施設長に依頼して、施設内を見学させていただき避難経路を確認しました。施設内のことも知っていないと、急に助けにいけない。今後も、計画的に見学をしたいと考えています。

教育長 胆振管内の事例では、学校運営協議会で避難訓練をしていました。

事務局 全校ではありませんが、1校で実施しています。

教育長 成果を聞くと、良かったといえます。防災について地域と連携し、安全に避難できることは、共通な願いです。

委員① 実際に見学させていただくことで、避難すべり台の位置を知ることができました。

町長 北海道は、泊原子力発電の避難訓練を一度行いましたが、想定が甘いとのことで来年2月に再度行い、黒松内断層帯による地震を想定していると聞いています。それであれば、黒松内町でも独自に避難訓練を行い、総合体育館に避難し、宿泊することも予定しています。

委員① 地震であればその訓練ですし、大雨災害とは訓練のやり方が異なります。

町長 本町では、30年間大きな大雨災害が発生しておりませんが、国内各地で想定外の自然災害が発生していますので、しっかり準備していかなくてはならない。

委員① プロパンガス業界の防災講演で、胆振の事例では全戸避難となっていたが、自分のホテルが心配で残っていた方もいたなどの実際の話が聞けて、参考になりました。

町 長 今日、自衛官の再就職をあっせんする担当管理職が札幌から来られて話をしましたが、近年は、自衛隊の立場からみた災害の講演もできると説明がありました。

教育長 子供たちも避難所生活が長期化すると意外な力を発揮すると聞きます。東北の事例などでは、日中、体を動かすことで、睡眠がとれるそうです。都市部の方が災害になるリスクが多く、その手引き・手帳が作成されています。知識として読むことは大切ですので、本町にもあると学校や子供たちが事前に学ぶことができます。

町 長 年度途中ですが、9月1日付けで社会人枠で2名を採用します。応募者7名の書類審査をし、4名の面接を行い3名の方に内定通知を出しました。

委員① 何歳くらいの方ですか。

町 長 30歳前後です。うち1名は流動的ではありますが、2名は採用になると思います。職員が突然退職することがあり、欠員を生じています。来春退職する職員がいますので、通常の試験採用で3名を募集する予定です。9月17日が試験日です。

診療所整備の基本計画をパブリックコメント中ですが、皆さんはご覧になりましたでしょうか。建設場所は生活改善センターを解体した跡地で、平面図と立面図で説明します。一般的には、2階を入院スペースとしますが、少人数での運営やセキュリティーの確保を考慮し、診察に係るものは1階にしています。水害が予想される場合は、2階に患者を移動し簡易病室になる場所を確保しています。病室は、2人部屋と1人部屋です。年内には、生活改善センター等を解体します。改善センターの位置に診療所が建ち、農業改良普及センターを含めた周辺が駐車場になります。役場通りから新しいアクセス道路を作ります。平成31年9月に完成し、10月供用開始を目指しています。基本計画は、診療所スタッフの意見も聞き、作成しました。

委員① 生活改善センター内の物はどうするのですか。

町 長 書類は公衆トイレ横の農協倉庫を借ります、車庫は6区の寺の沢川沿いに2棟建設します。

教育長 市街地に広場があると、色々な活用ができます。

委員① 昨年のビーフ天国前夜祭は、役場駐車場でやって良かったとの声を聞きます。

町 長 天候の影響がありますが、人数も売り上げも増えたそうです。

教育長 駅前の窮屈感も魅力でしたが、役場駐車場では色々な所から出入りできる便利な場所です。

町 長 診療所は平成31年度に完成しますので、学校給食センターは32年度に建設し、前年度に実施設計を行う予定です。

以上で予定していた時間になりました。皆さんから、意見がなければ終えたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員等 ありません。

町 長 今日は、長時間にわたりありがとうございました。これで閉じたいと思います。次回の総合教育会議においても、色々な話題を話せたり、意見を交換できる場となればと思います。お礼を申し上げ、これで終わります。ありがとうございます。

委員等 ありがとうございました。